

東北大地震被災地で活躍される先生方から、近況を知らせるメールを頂戴しました。

清水雅行先生は、被災地の仙台市若林区に開業されていますが、厳しい被災の状況をメールでお知らせくださいました。

東北大学の関隆志先生からは、「外来診療に追われて、余裕のない状況」におられるとのメールをいただいております。

同じく東北大学の岩崎鋼先生の状況は、ご学友の北田志郎先生が逐一岩崎先生に代わってお知らせくださいました。

清水雅行先生からのメール（4月13日）

医院は津波被害のあった若林区の中では、内陸側にあり津波の被害はありませんでした。地震で医院建物のガラスや壁が割れたりしましたが、大丈夫です。

医院は1週間ほど休診したのち、時間を短縮して診療再開し、先週からは通常通りの診療を行っております。

職員さん達や家族も、全員無事でした。

患者さんは何名か亡くなっていますが、まだ確認が取れていない状況です。無事でも家を津波で流された方が沢山いらっしゃいます。

ライフラインの復旧が遅れていたり、煎じ器が割れてしまったり、避難所生活のため、生薬を飲むことができないでいる方が多いです。

医院の建物は何とかもっています。老朽化も進んでいたので、いずれ早い時期に建て替えか、移転しないといけないようです。

震災前と同様の状態に戻るのには、大分先になりそうです。

岩崎鋼先生からのメール（3月18日）

さて、本日今回の大震災でもっとも被害のひどい場所の一つ、南三陸町女川に医療支援に行ってきました。現地の惨状は凄まじく、まさに大災害だと実感しました。鉄筋コンクリートの4、5階建てのビルがみな崩れ落ち、飴のように折れ曲がったビルの残骸の上に船がひっくり返って乗っています。

避難所を回って状況を把握するとともに数カ所で診療を行いました。高血圧、糖尿病などが悪化している人々にはもちろん降圧剤、糖尿病治療薬が必要ですし、不安から胸痛、動悸などを訴える人にもデパスや睡眠剤などを処方しましたが、漢方も幅広く用いることができることが判りました。

第一は感冒を初めとする上気道炎。罹災7日目を過ぎ、昨日辺りから徐々に発熱患者が増え始めていると、地元第二中学校の避難所でご自身も避難生活をしながら保健活動に当

たる保健師三浦さんが語ってくださいました。本日使用した処方以下の通りです。

1. 感冒一般：葛根湯
2. 咽頭炎・気管支炎：麻黄附子細辛湯合桂枝湯
3. 喘息発作の緩解：麻黄附子細辛湯
4. 咽頭炎には上記に桔梗湯を追加

また現地には暖房がきわめて不十分で、低体温症に陥る高齢者が多く見られます。

5. 低体温症：当帰四逆加呉茱萸生姜湯合人参湯

衛生環境が過酷なため、そろそろ小児で下痢・嘔吐が始まっています

6. 小児の嘔吐・下痢：五苓散

周囲は粉塵がひどいためか、また杉花粉も飛んでいるため、アレルギー性結膜炎、鼻炎が目立ちます

7. アレルギー性鼻炎：小青竜湯

今日被災地で使用した方剤は概ね上記の通りでした。週末にまた一度行くつもりですので再度ご報告します。

北田志郎先生からのメール（3月18日）

関隆志先生からお返事が届きました。ご無事でいらっしゃいます。

水と食料の確保に奔走されていらっしゃる事、漢方薬の流通も滞っていることを伺いました。ツムラさんは茨城工場がダウンして供給体制が崩壊していると聞きました。

北田志郎先生からのメール（3月19日）：

評議員の清水雅行先生（仙台市）も、ご家族ともどもご無事とのメールをいただきました。クリニックに被害が出たものの、診療も一部再開なさっているとのこと。ご報告まで。

北田志郎先生からのメール（3月20日）

岩崎綱氏はm3の掲示板で「災害医療における漢方（南三陸町女川にて）」というスレッドを立てて発信しています。その一部を送らせていただきます。

岩崎綱先生のメッセージ（3月20日）

「被災地医療2，3日目」

一昨日の私に続いて、昨日、今日と東北大学先進漢方治療医学講座(漢方内科)大学院生(今

年学位を取られて修了されますが)の沖津玲奈先生が石巻など現地の避難所に行ってくださいました。漢方薬はすべて仙台市内の明日香調剤薬局様から急遽提供していただいています。現地ではやはり感冒など呼吸器感染症が流行し始めており、葛根湯、小青竜湯などが非常に重宝したとのことです。特に今日は晴れたものの風が強く、町全体が壊滅状態で廃材がごろごろしているなか、風が吹くとアレルギー性結膜炎、鼻炎がひどく悪化しますので、小青竜湯は大量に使用しました。今後胃腸炎も増えてくるでしょう。明日午後からは再び天気が悪化して雪や雨になるそうです。暖房のない避難所の環境がさらに悪化することになります。

東北大学病院の避難所診療は一応本日をもっていったん休止となります。これは現地のセンターとなっている石巻日赤との再調整が必要と判断されたためです。石巻日赤には日本赤十字から強力な応援団が入っており、院内での医療は一応確保されている状態です。東北大からは長期化した時点での再支援が必要となるでしょうが、今は日赤に任せられた方が良さそうとのことです。しかし地域の避難所、診療所の支援は今後も必要と思われます。また仙台そのものも被災地で、私も今日市内のスポーツクラブの好意で8日ぶりにシャワーを浴びました。仙台市ガス局の工場が地震と津波で全壊したため、ガスの復旧の見込みは立たない状況とのことです。ガスがないと、病院の給食にも甚大な影響が出ています。またセントラルヒーティングは使えず、暖房が入らない状態です。

週明けからは大学病院の外来も一応通常に近い状態で再開される見込みです。漢方内科も外来診療を再開することになりますが、ツムラの茨城工場が被災したため直ちには漢方薬の出荷が困難とのことです。急遽クラシエなどへの変更も協議しなければなりません。しかしツムラもあるだけの薬を掻き集めて、23日には私宛に発送してくれることになっています。麻黄附子細辛湯、麻黄湯、当帰四逆加呉茱萸生姜湯など今回の医療支援で必要性が痛感された処方数点です。ただ葛根湯のめどが立っておりません。特に関西以南の方々、葛根湯の確保にご協力いただければ幸いです。

東北大学先進漢方治療医学講座准教授・東北大学漢方内科医局長 岩崎 鋼
(4月1日からは仙台市内の国立病院機構西多賀病院漢方内科勤務となります)

北田志郎先生からのメール (3月23日)

学会役員の先生方には改めて申し上げるまでもないことですが、2千年前の生活環境下で成立した東アジア伝統医学は、薬も食物も燃料も不足している状況下での災害医療に極めて親和性が高いと思われます。現代日本において、平時はセカンドチョイス以降のラインとみなされる伝統医学が、有事においては、用いる手段さえあるならファーストラインになりえるということかと。

仙台の関先生、清水先生におかれましても、どうかご無事でこの大災害をしのがれ、ご身边が落ち着かれましたら是非ご体験をご教示下さいますようお願い申し上げます。

あおぞら診療所 北田志郎

